

(3) 中学校社会科の実践と考察

(オ) 単元の評価規準

ア 授業の概要

- (ア) 期間 令和5年12月5日～12月22日
- (イ) 対象 中学校第2学年(35名)
- (ウ) 単元名 「地域の在り方」
- (エ) 単元の目標
 - ・ 地域の実態や課題解決のための取組について理解する。
 - ・ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解する。
 - ・ 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
 - ・ 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

【知識・技能】

- ① 地域の実態や課題解決のための取組について理解している。
- ② 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。

【思考・判断・表現】

地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、地域の実態や課題解決のための取組について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野に地域の実態や課題解決のための取組を主体的に追究しようとしている。

(カ) 単元の指導計画

単元の指導計画表を表20に示す。

表20 単元指導計画

※ ○：評定に用いる評価 ●：学習改善につなげる評価 ※ 社会科の時間 総合的な学習の時間

時	ねらい	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・アストラムライン延伸の影響について考えることを通して、広島市の実態や取組について理解することができる。 ・単元を貫く問いを設定し、学習の見通しをもつ。	①		●
2	・広島市の課題について調べることで、広島市はどのような町づくりを目指すべきかについて多面的・多角的に考えることができる。		●	
3、4、5	・「Our Vision」の実現のために解決すべき課題について調べ、課題の要因や背景を多面的・多角的に考察し、その解決策を構想、表現することができる。		●	●
6	・地域の課題について考察、構想したことをまとめ、表現することができる。 ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解することができる。	②	○	○
9、10	・班で考えた「私たちの町の未来像」とその実現のために達成すべき目標「Our Town's SDGs」を、クラスの仲間に発表し、相互評価することができる。	※ 社会科の学習の評価は行わない		
11	・「Our Town's SDGs」を地域の方に発信し、これからの町の在り方について対話することができる。			

イ 手立ての具体

(7) 手立て①

本単元では、手立て①について、生徒の興味・関心、特性に合わせて学習材や学習方法の柔軟な設定を行う。

本単元における興味・関心、特性に合わせるとは、生徒が学習課題に対して着目したことや主張したいこと、既習事項、これまでの経験、一人で学ぶか他者と学ぶかといった学び方についてのニーズ等に応じることである。

学習材の選択については、タブレット端末、教科書、資料集、図書室の書籍等を利用し、生徒が必要に応じて資料を収集できるようにする。加えて、生徒が既習事項を基に、見方・考え方を働かせることができるように、地域の特色を考察するための中核となる5つの視点（自然環境、交通・通信、人口、都市・村落、産業、伝統・文化）から資料を用意し、生徒に提示する。（表2）

また、学習方法の選択については、座席やワークシート等を班を中心に設定する事で、個人で学習するか他者と一緒に学習するかを自由に選択したり切り替えたりしやすくする。

表21 地域の特色を考察する際の中核となる5つの視点から準備した資料

番号	考察の視点	資料タイトル
①	自然環境	広島市土砂災害特別警戒区域
②		アストラムライン延伸ルート付近で確認された絶滅の恐れがある生き物（例）
③	産業	広島都市圏の主な商業施設
④	人口、都市・村落	住宅団地の高齢化率の状況
⑤	人口、都市・村落	住宅団地に住んでいる人のうち転居したいと考えている理由
⑥	交通・通信	アストラムライン大塚駅の利用者推移
⑦	交通・通信	アストラムライン延伸事業第Ⅱ期事業化区間について
⑧	交通・通信	令和4年度広島市市民意識調査報告書

(4) 手立て②

本単元では、手立て②について、単元を貫く問いに対する振り返りと、その時間の学び方についての振り返りの機会を設定する。

単元を貫く問いに対する現在の学習到達度を自己評価する事で単元のゴールを意識しながら学習を進めることができるようにする。

加えて、その単元のゴールと現状との比較を通して、1時間の中での学習材や学習方法等の選択の適切さや次の時間への見通し等を確認しながら生徒自身で学びを調整していくことができるようにする。その際、振り返りシートを用いて、一単元分の振り返りを一覧できるようにする。

(7) 手立て③

本単元では、手立て③について全員が納得できる解を求めるために多様な意見を必要とする課題として「私たちが住み続けたい町を実現するために必要なことは何だろうか」という問いを設定する。これは生徒がそれぞれの立場や視点から課題意識を反映させることができる問いである。生徒が多面的・多角的に思考する事ができる。

またその際、学習班で合意形成を図る過程を設定する事で、他者の多様な意見に対して分からないことを質問したり、お互いの考えをすり合わせるために議論したりする必然性が生まれると考えられる。そのことによって、他者の意見を参照したり、互いに助言したりしながら協働的に学ぶことができるようにする。

ウ 手立ての妥当性と課題の考察

(7) 手立て①

a 分析資料・分析方法

- 録画記録による行動分析
- 授業中の発話記録の分析
- ワークシートの記述分析

b 結果と考察

生徒A

生徒Aのワークシートへの記述を表22に示す。

表 22 生徒 A のワークシートへの記述内容

私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けたい町」に、、、	<input type="checkbox"/> 近づく <input checked="" type="checkbox"/> 近づかない
読み取れたこと、分かったこと	資料の番号
絶滅する動物が出る可能性がある。	②
土砂災害が発生する危険のある場所を（アストラムラインの線路が）通っている。	①
西広島-本通り間を結んで環状線にする計画がある。	⑦
転居するのをある程度防ぐことができる。	⑥

◎私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けたい町」に、、、	<input checked="" type="checkbox"/> 近づく <input type="checkbox"/> 近づかない
アストラムラインを西広島まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けられる町」を何%実現できそう？	
私は60%実現できると思う。	

資料 29 第 1 時における生徒 A の発話記録

A は生徒 A、a1、a2 は他の生徒を表す

a1：広域公園前から西広島駅まで繋がったら、アウトレットと行きやすくなるってこと？え、それってでかくない？
a2：アウトレットに行きやすくなるのはでかい。
A：そんな良いことばかり見とつてもダメじゃけ。デメリットも見ないと。どういう問題があるかも考えんといけん。… ①
a2：資料②とかで、絶滅する生き物が出るかもしれないっていうこと？
A：そうそう。資料②は俺も見た。それ以外にも資料①見ると、(アストラムラインの延伸路線が)土砂災害警戒区域を通過したりするから、土砂災害の危険が高い時とか運行できるんかね？… ②
あと、資料④を見ると、アストラムライン通したときに、広域公園前と西広島駅間の利用者がどうなるかとか考えた方が良いのかな？
(中略)
A：アストラムライン延伸で誰もが快適に住み続けられる町に何%近づくと決めた？俺 40%。… ③
a2：私、60%。… ④
A：理由は？
a2：だって、行ける場所が多くなるから。これまではあっち(広域公園の方面)に行くまでに電車とかバスに乗り継いでいかないとイケなかったから大変だった。買い物する人が増えるって良いことじゃない？それに、資料⑥にあるように、団地に住んでいる人が転居したい理由の第 1 位が「買い物不便」ってなってるから、アストラムラインが伸びて便利になったら住む人も増えるんじゃない？
A：確かに、やっぱメリット大きいかな。じゃ、俺も 60%かな。 … ⑤

表 22 から生徒 A は当初、アストラムライン延伸では誰もが住み続けたい町の実現に「近づかない」と主張していた。その際の根拠として、アストラムライン延伸が自然環境に与える負の影響が分かる資料①、②を選択している。しかし、その後、資料⑥、⑦という利便性の向上に関する資料を選択し「近づく」と自身の主張を変容させている。

資料 29 でも、下線部①、②にあるように、生徒

A はアストラムライン延伸のデメリットに着目して学習をスタートしている。しかし、a2 が自身より肯定的な考えをもっていたことから(下線部③、④) その理由に興味をもち質問している。その質問に対して、a2 が資料⑥を使って、買い物が便利になることや、それが人口増加につながることを説明し、生徒 A は、その理由に納得している。(⑤) その後生徒 A は、環状線化に関する資料⑦を加え、最終的に、自身の当初からもっていた否定的な考えと、新たに得た肯定的な考えを比較し、メリットの方が大きいと結論付けている。

これは、生徒 A がもともともっているデメリットに着目するという特性や対話の中で生まれた興味に応じて資料を選んだ結果である。生徒 A は、これらの資料と自身の主張を結びつけながら考えることができていた。つまり、生徒 A は、自分の主張を裏付けるために資料を選択しながら、課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒 B

表 23 生徒 B のワークシートへの記述内容

私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けたい町」に、、、	<input checked="" type="checkbox"/> 近づく <input type="checkbox"/> 近づかない
読み取れたこと、分かったこと	資料の番号
西広島駅までアストラムラインが伸びると買い物しやすくなる。	⑥
アストラムラインが伸びることで高齢化率が高い団地に若い人が引っ越してくるかも。	④
バスが利用しにくいと感じている人が多いから、その対策になるかも。	⑧
延伸する事で土砂災害の時に安全な場所に逃げ込むことができる。	①
延伸する事で、約 5 種類の生き物が絶滅する可能性がある。	②

私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けたい町」に、、、	<input checked="" type="checkbox"/> 近づく <input type="checkbox"/> 近づかない
アストラムラインを西広島まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けられる町」を何%実現できそう？	
私は70%実現できると思う。	

資料 30 第 1 時における生徒 B の発話記録

B は生徒 B、b1、b2、b3 は他の生徒を表す

B：アストラムラインが伸びるとか私たちの生活にあまり関係なくない？そもそも、アストラムラインって何なん？調べてみよう。… ①
B：アストラムラインが西広島駅まで伸びることで「誰もが快適に住み続けられる町」に近付かないことってあるん？いいことばかりじゃない？… ②
b1：でも、資料②みたら、アストラムラインが新しく通るところに絶滅の恐れがある生き物が結構いるから、延伸の工事をする事でこの生き物たちが絶滅する危険性が高ま

るってことじゃない？
 B：あーそういうことか。じゃ、いいことばかりじゃない
 ね。資料④って何が読み取れる？…④
 b1：アストラムラインが新しく通るところの団地の高齢者の
 割合のことよ。ピンクや赤は高齢者の割合が高い団地よ
 ね。
 B：じゃ、アストラムライン通しても高齢者が多いんだっ
 たら使う人も少ないってこと？アストラムラインを伸ばして
 もあまり意味くない？…④
 b2：でも、アストラムラインができて便利になることを期
 待して若い人がここに引っ越してくるかもしれないよ！ア
 ウトレットも近いし、
 B：あーなるほどね、どちらとも言えるのか。どっちが正解？
 b2：私は、若い人が引っ越してきて、団地の高齢化率が下
 がると思うからメリットだと思うな。資料⑥に団地に住ん
 でいる人がその団地から引っ越したい理由の第一位が
 「買い物不便」ってなってるから、それがアストラム
 ライン延伸によって解決されたら逆に住む人増えるかも
 しれんよね。
 B：確かに、アストラムラインを伸ばすって、移動が便利にな
 るだけじゃなくて、高齢化率を良くすることにもなるん
 だね。…⑤

表 23 から生徒Bは当初、アストラムライン延
 伸によって誰もが住みたい町の実現に「近づく」
 と主張していた。その根拠としてアストラム
 ライン延伸による利便性の向上を示す資料⑥、④、
 ⑧を選択している。また、その後の学習の中で資
 料①からもメリットを読み取った。

しかし、資料 30 の下線部①、②から生徒Bは当
 初、アストラムラインがどのようなものか分から
 ず、その延伸によるデメリットについても想像が
 及ばないなど、「近づく」と考える根拠が乏しい中
 での主張であったと言える。そこで生徒Bは交通
 網が整備されることによるデメリットとは何かと
 b1に質問している。(下線部②)そこで、b1が資
 料②を示しながら自然環境に与える負荷の視点か
 らデメリットを説明すると、アストラムライン延
 伸がもたらすデメリットに着目するようになった。

③そして、資料④からもデメリットを読み取
 ろうとするが、④ b2 と対話する事で資料④か
 らは団地の高齢化率改善の効果が見込めるという
 メリットを読み取ることもできると考えた。⑤
 最終的に、当初と同じ「近づく」という主張を
 もったのだが、これは生徒Bがメリットとデメリ
 ットの両側面から考察して導いた主張であるため、
 より多面的な考えへと変容していると考えられる。

生徒Bは、他者と一緒に学習することを選択し
 たことで、アストラムライン延伸によるデメリッ

トが分からないという自分の疑問を解消したり、
 読み取った内容から構築した自分の考えを確認し
 たりすることができた。つまり、生徒Bは自分の
 疑問を解消したり、考えを確かめたりするために
 他者と一緒に学習するという学習方法を選択しな
 がら課題解決に近づいていたと考えられる。

生徒C

表 24 生徒Cのワークシートへの記入内容

私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすこ とで「誰もが快適に住み続けたい町」に、	<input checked="" type="checkbox"/> 近づく <input type="checkbox"/> 近づかない
読み取れたこと、分かったこと	資料の番号やタイトル
土砂で崩れるかもしれない。	①
動物が絶滅するかもしれない。	②



私は、アストラムラインを西広島駅まで伸ばすこ とで「誰もが快適に住み続けたい町」に、	<input type="checkbox"/> 近づく <input checked="" type="checkbox"/> 近づかない
アストラムラインを西広島まで伸ばすことで「誰もが快適に住み続けられる 町」を何%実現できそう？	
私は50%実現できると思う。	

資料 31 第1時における生徒Cの発話記録

Cは生徒C、c1、c2、c3は他の生徒を表す

c1：そもそもアストラムライン乗ったこと無いんだけど。
 C：俺もない。でも、アウトレットまで行けるのはおかしくない？
 …①
 c2：でも、西広島駅まで行くのがね。普段あんま電車使わんし。
 c3：私も、西広島駅そんな使わん。
 c1：てゆうか、バスで行けるんじゃないか今のままでも良くない？
 C：そしたら(アストラムラインが伸びても)無駄か。まあ、頑
 張ればチャリでも行けるし。…②
 (中略)
 C：ねえ、どの資料使った？
 c3：俺、①、②にした。
 C：じゃ、俺もそれにしよう。資料①は土砂災害が起きやすい場
 所をアストラムラインが通ること？資料②は絶滅する動
 物がこのあたりにいるってことか。じゃ、アストラムライ
 ン伸ばすのって良くないことじゃん。…③

表 24 から、生徒Cはアストラムライン延伸に
 よって誰もが住みたい町の実現に「近づく」
 と主張していた。しかし、アストラムライン延伸
 のデメリットを示す資料①、②を選択しており、
 最終的にアストラムライン延伸では誰もが住み続
 けたい町の実現には「近づかない」と考えが変容
 していることが分かる。

資料 31 から、生徒Cは、当初アストラムライ
 ン延伸によるメリットを主張していた。(下線部①)

しかし、生徒C以外は全員西広島駅に行くまでの距離等を理由に否定的な意見を述べており、その意見を聞いた生徒Cは考えを変更している。(2)そして、生徒Cは、c3が選択している資料①、②を選択したことで、アストラムライン延伸による自然環境への負荷を根拠に、アストラムライン延伸では誰もが住み続けたい町の実現に近づかないという結論を導いた。しかしこれは、生徒Cが当初もっていた主張を吟味したり、友達の意見と比較したりしないまま出した結論である。

つまり、生徒Cの学びからは主張と資料を結びつけながら学習する姿は見られたが、学習班での意見の偏りに影響され、当初の主張を吟味しないまま結論を導いてしまうという課題が見られた。

c 手立て①の妥当性と課題

生徒が学習材を選択しながら学ぶことができるようにすることで、自らの主張を裏付けるために資料を選択しながら学ぶ姿が見られた。

また、学習方法の選択については、自分の疑問を解決したり、自分の考えを確かめたりするため

に他者と一緒に学ぶという学習方法を選択する姿が見られた。

つまり、学習材、学習方法を柔軟に設定することで生徒がそれぞれのニーズに応じて学習材・学習方法を選択しながら課題解決に近づくことに有効であったため、手立て①の妥当性が示されたと考えられる。

一方で、生徒Cのように学習班の中の意見の偏りによって、当初の主張を裏付けるための資料選択ができなくなる姿が見られたため、学習班にこだわらない柔軟な対話の機会を保障することが必要である。

(4) 手立て②

a 分析資料・分析方法

- ・ 振り返りシートの記述分析
- ・ 授業中の発話記録の分析

b 結果と考察

生徒A

生徒Aの振り返りシートへの記述内容を表 25 に示す。

表 25 生徒Aの振り返りシートの記述内容

時	授業の振り返り	単元を貫く問いに対する現在の考え
2	広島市の課題を出し合い、話し合って our vision を決定できた	地域の伝統や文化をもっと発信する事で魅力を伝えていくこと…①
3	伝統産業は出荷額や従業員数が減少しているなど衰退していることが分かった。原因は、1980年以降にマーケットの変化に対応できなかったことや、海外からの近代製品に価格や量で負けたことなどがある。また、従業員数が減少している原因については分かっていないため次の授業で調べたい。	地域の伝統産業を魅力として伝えていくには、近代製品にはない伝統工芸品の良さや魅力をアピールするなど近代製品との差別化が必要…②
4	昨日調べたこと以外にも、伝統的な行事が行われなくなるなどの文化の衰退、農村の衰退による原材料の調達が困難になったことが分かった。従業員数が減っている理由として、伝統産業は零細企業が多く、給料が安いとか休みがとりづらい、技術の修得までに時間がかかるなどの理由で若い人が就職しなくなったため、継承者が少なくなったことが新たに分かった。	伝統的工芸品の良さをアピールするためにもその産業を支える人がいないといけない。若い人が伝統産業に関わるようにすることが大切…③
5	ネットで調べると、岩手県の南部鉄器のように伝統工芸品の海外需要が高まっていることが分かった。…⑤あと、これはこれまでの地理の授業で習った気がするので、そっちも見てみる。	記述無し
6	地理の教科書に載っていた徳島県の上勝町のように SNS などを使ったアピールで売り上げが上昇していることが分かった。…⑥	伝統工芸品の海外需要が高まっていることに注目し、若者が得意としているネット販売、sns の活用などによって海外の需要開拓を行う…④

単元を貫く問いに対する振り返りを見ると、表 25 から生徒Aは住み続けたい町にするために地域の伝統や文化を魅力として発信することが必要であると考えている。(下線部①)そして、そのため

の解決策を伝統工芸品の良さを近代製品との差別化を図ることで発信する、若い人が伝統産業に関わる事というように具体的に変容させながら、最終的に伝統工芸品の海外への販路拡大と、若者が

得意とする SNS を媒体として宣伝を行うことが必要であると結論付けている。(4)

授業の振り返りを見ると、生徒 A は第 3 時で伝統工芸品の出荷額減少の要因を調べることはできたが、従業員数の減少は調べられなかったと記述しており、第 4 時でその振り返りに基づいて要因を調べている。(2、3) また、第 5 時において岩手県の南部鉄器の海外需要が高まっていることをインターネットで調べた際、地理の教科書で学んだことを想起し、第 6 時で地理の教科書を学習材として選択したことで、その事例を参考に解

決策を構想することができていた。(5、6)

以上のことから、生徒 A は単元を貫く問いについて振り返ることによって単元のゴールを意識し、毎時間の学習の振り返りを学習材の選択に生かしながら学びを調整する事で課題解決に近づくことができていたと考えられる。

生徒 B

生徒 B の振り返りシートへの記述を表 26 に示す。

表 26 生徒 B の振り返りシートの記述内容

時	授業の振り返り	単元を貫く問いに対する現在の考え
2	資料などを見てみて広島市の課題が 2 つあった。1 つは交通面でもう 1 つは人口面の 2 つが課題としてあった	64 歳以上の運転手の交通事故が多い+人口減=スムーズに移動でき安心して賑わえる町にしたいです
3	住み続けたい町にするために伝統産業者減+売り上げ減なのではないか。… ①なぜなのか?どこで見られるのか?を調べた。でもネットの情報は文字が多くて分かりにくい。…⑤	どこで見られるのかは都心から外れた田舎の方だと思う。体験してみて楽しさを味わってみるのも 1 つの方法だと思う…②
4	結果→今までは両親の後を継ぐ人が多かったが今は都会の方に自分のしたいことをする人が多くその結果伝統産業者が減るという課題に陥った。前回はネットの情報を上手く読み取れなかったけど、生徒 b1 に聞いたり、一緒に見てもらったら良く分かった。…⑥	伝統産業者は都心から外れた所に多いので伝統産業者が増えることで都心から外れた田舎の人口が増えると思う
5	売上減少理由→原材料・用具等の不足、需要の減少などがあげられた	情報通信の優れた技術を使い広告か CM でアピールするのもいいと思った
6	伝統産業者が減っているもう一つの理由として手仕事がシンプルな上休日給与が設備されていて減少しているという理由があった	それを伝わりやすいよう根拠も踏まえてスライドが作れた
7	解決策は CM や広告で宣伝することだと思いましたその理由は隣のところに書てます	その理由は今は様々なもので CM を観れるので優れた技術を使い若者の関心を深めたほうがいいと思った…③
8	もう 1 つの解決策は休日を増やすことをする。その理由は隣に書いてます	休日を増やすことでそれがモチベーションになり仕事に気合が入ると思ったからです…④

表 26 から生徒 B は「住み続けたい町」にするために伝統産業従事者の減少と売り上げ減少を解決すべきだと考えている。(下線部①) 生徒 B の課題解決策は伝統産業を体験することから、CM を通して若者の関心を集めること、伝統産業の働く人の休日を増やすことへと変容している。(2、3、4) これは生徒 B の単元を貫く問いに対する答えが伝統産業の魅力発信に、労働環境の処遇改善という視点を加えたものへと変容していると言え、生徒 B は学習目標を意識しながら学ぶことができていたと言える。

授業の振り返りを見ると、生徒 B は下線部⑤のように、インターネットで上手く情報を読み

取れなかったことから、同じ班の友達に協力を依頼し、一緒に読み取りをするという学習方法を選択したことが分かる(6)。その結果、伝統産業従事者数減少の要因を、若年層が伝統産業ではない志をもって都心に一極集中していることによる後継者不足だと整理することができた。

このように生徒 B は単元を貫く問いに対する考えを変容させていく過程で、学習目標を意識し、自分に合った学習方法を選択しながら課題解決に近づいていたと考えられる。

一方で、生徒 B の学習班で設定した「Our Vision」には伝統・文化の視点が含まれておらず、生徒 B は第 7 時において教師に対して「私

が担当している課題が班の Our Vision と関係ないようになってきているのですが、どうしたらいいですか。」と質問している。このことから学習班で活動を行う際には、個人の設定した課題と班で設定した課題との関係に留意が必要である。

生徒C

生徒Cの振り返りシートへの記述内容を表 27 に示す。

資料 32 第3時における生徒Cの発話記録

T：教師、C：生徒Cを表す

T：C君はどの課題を担当しているの？あーこれね。どの視点に着目する？
C：どれにしようかな？
T：西区みたいにレクトがあったり、中区みたいにたくさん商業施設があるところもあるよね。
C：じゃあ、まずどこでその課題が見られるかを調べてみます。…①
(中略)
C：も一分からん。これどこに商業施設が少ないのか分からん。先生、ググっても商業施設が少ない場所が分からない。(Google マップを見ながら) …②
T：この地図を見ると、都市部に多くて、郊外に少ないことが分かるね。
※生徒Cは教師に言われたとおりにワークシートに気付きを記入する (振り返り入力時)
C：これ、何入力すればいいん？…③

表 27 生徒Cの振り返りシートへの記述内容

時	授業の振り返り	単元を貫く問いに対する現在の考え
2	自分達が考えたものをまとめ、Our Vision が書けた	記述無し
3	関係ありそうな視点を見つけいいサイトを見つけた…①	記述無し
4	関係ありそうな視点を決め、どこで起きているか知れた。…⑤	記述無し
5	調べたことを少しまとめた	記述無し
6	半分ほど、資料をまとめることができた	記述無し
7	資料を完璧にまとめた、これを手く使って発表	記述無し
8	記述無し	記述無し

生徒Cは「百貨店の売上が減少しており、町の魅力が無くなっている」という課題を探究しているが、単元を貫く問いに対する振り返りは記述できていない。また、毎時間の授業の振り返り内容を見ても、調べた内容や調べた視点について表面的な結果のみを振り返っており、学習到達度を自

己評価したり、学習材、学習方法を選択したりすることにつながっていない。

生徒Cは第3時において課題の要因を調べる際に、その課題が見られる「位置」に着目し、Google マップで調べ、③どこに商業施設が多く、どこに少ないのかという分布を明らかにしようとするが、情報を上手く読み取れず、課題の解決策へと繋げることができていない。④

そこで着目する視点を変更することが考えられるが、生徒Cは第4時における振り返りにも自らが選択した視点を「関係ありそうな視点」と振り返り、課題解決に近づくことができないまま学習を続けている。①、② その他にも参考にする学習材や学習方法を他者と一緒に学ぶなどに変更したりすることが考えられるが、生徒Cは自分の学びを客観的に捉え、修正することができていない。

つまり、生徒Cは、学習到達度の自己評価を適切に行うことができていないことが考えられる。

c 手立て②の妥当性と課題

単元を貫く問いと1時間毎の授業の振り返りをする機会を設定することは、生徒が単元のゴールを意識し、自らの学習を調整しながら学習課題の解決に近づくことに有効であったため、手立て②の妥当性が示されたものとする。

一方で、自らの学びを適切に振り返ることができない場合、教師は分かったことと分からなかったことを分けて整理する等の支援が必要であった。

(ウ) 手立て③

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 授業中の発話記録の分析

b 結果と考察

生徒A

生徒Aの発話記録を資料 33 に示す。

資料 33 生徒 A の発話記録

A は生徒 A、a1、a2、a3 は他の生徒を表す

A : (Our) Vision どうする? 要するに何に重きを置くかよ。
a1 : (現時点の案である) 私たちの Vision の「緑が多い」ってあるけど、私は正直、緑が多くて気持ち豊かにはならんと思う。
a2 : もう一個なんか、、生きやすい世の中とか?
A : どうやったら住みやすい町になる? あとは考えるとしたら、人口減少や転出をどう考えるかよ。…①
a2 : どうやったら人口増える? 広島の魅力があふれるという状況を作るとか。…②
a1 : じゃ、ユニバやディズニー作ったらいいんじゃない?
A : それは厳しいと思う。仮にそんなテーマパーク作って、すぐは人が来るかもしれないけど、そこからどんどん落ちていくでしょ。住み続けたい町の姿は何かというのを考えないといけない。
a1 : 大企業を誘致するとかは?
A : 魅力が無いと企業は稼ぐためにあるんだから、呼んでも来ないと思うよ。人口減少を防いで、人を巻き込むためにどうするか? おれは、買い物不便というのを解消するために交通機関を充実させるとか、地震の対策とかして安全性をアピールするとかがあると思う。…③
a1 : でも、魅力ある町にするには産業も大事よね。
a2 : 広島魅力を伝えるかあ、、広島に興味をわくような魅力って何。
a3 : 広島の魅力と言えば原爆ドーム、厳島神社とかの世界遺産、神楽とかも有名じゃないかな。つまり、伝統・文化に魅力があるんじゃない。…④
a1 : これらを全部入れるの?
A : 魅力を伝えたいんなら具体的に 1 個に絞って「どんな魅力だったら伝わりやすいか」を考えないといけないか。…⑤
a1 : でも A は人口減少にしたいんだよね。
A : 分かった。広島を伝統・文化を魅力としてもっと発信する事で人口減少を食い止めるというのを俺らの Our Vision にしようや。…⑥
他の全員 : 賛成。

資料 33 の下線部①から生徒 A は当初、人口減少や県外への転出超過問題の解決策について明確な考えをもつことができていることが分かる。しかし、対話を通して最終的に下線部⑥のように伝統・文化という新たな視点から町の魅力を向上させるという結論を導いている。

対話の過程に着目すると、下線部②から生徒 a2 が「町の魅力向上」の視点で人口減少問題を捉え直して意見を述べたことを受けて、下線部③のように生徒 A は町の魅力向上には交通網の整備による利便性向上や地震対策の充実による安全性のアピールが必要だと述べている。しかし、生徒 a3 の広島の魅力は伝統・文化だという発言を受けて、その考えを更に深めようとしている。(下線部⑤) 最終的な解決に向けて下線部⑥のように、人口減少、転出超過問題を「町の魅力向上」という新たな視点から考察していた。

以上のことから生徒 A は合意形成に向けた話し合いの過程で、課題を新しい視点から捉え直したり、課題についての考えを深めたりしながら課題解決に近づいたと考えられる。

生徒 B

生徒 B の発話記録を資料 34 に示す。

資料 34 生徒 B の発話記録

B は生徒 A、b1、b2 は他の生徒、T は教師を表す

T : この班はどんな Our Vision にしますか?
b1 : 自然環境をメインにしようと思います。
T : なんで?
b1 : だって、(自然環境が) 悪いと人が苦しくなったりするしさ、。
B : え、うちは人口かも。あと、伝統も受け継がないといけない、。
b1 : でも、人が来るってなったら自然環境が良くないといけない。あと、産業とか、交通網の整備も必要だと思う。
B : 確かに、、ということは全部大切な?
b1 : ここはやっぱり交通網の整備にしよう。
B : でも、人口が減少したら交通網の整備どうとかって話じゃなくない?…①
b1 : 確かに、、
B : じゃ、人口の次に交通が大事。自然も大事なんだけどね。
b1 : 産業が無いと誰も来ないじゃん。
B : 人口が増えて、少子高齢化を解決することが大切だよ。…②
b2 : 人口が増えると、それだけ町が活発になるじゃん。人口が増えて、産業が活発になると、そこにまた人が集まることになる。
b1 : 人口が増えて、より良い町になる。暮らしやすい町になる。
B : なんて暮らしやすくなるん? 人口が増えるだけで暮らしやすくなるわけではないよね。…③
ショッピングモールができるとか、電車が通りやすくなるとか。
B : 何か具体的なメリットが無いと、、。移動しやすく、、「安全に移動しやすく」じゃない?…④
高齢者が車を運転することが多いから交通事故が多いというのがあるから。

資料 34 の下線部①から当初、生徒 B は住み続けたい町の実現に向けて人口減少問題の優先順位が高いと考えている。そして下線部②にあるように、人口減少問題の解決には、少子高齢化問題の解決が必要だと考えた。

人口増加については、それ自体が暮らしやすさとは繋がっていないと考えている様子が伺える。

(③)その後、対話を通して人口の問題について、産業や交通など多面的に考察する事で、最終的に高齢者が安全に移動できる交通環境の整備が必要

だという結論に至っている。(④)

このように生徒Bは、他者に対して自分の意見をアウトプットしたり、他者の意見を批判的に捉えたりすることを通して、問題について多面的に考えながら課題解決に近づいていると考えられる。

生徒C

生徒Cの発話記録を資料35に示す。

資料35 生徒Cの発話記録

Cは生徒C、c1、c2、c3は他の生徒

C: みんなどんな町にしたい? 俺は、空気がきれいであり、...
...①
c1: (Cの発言途中から)移動しやすく、...
C: あ、いいね。移動しやすく?
c1: 移動しやすくて、...
C: デパートの売り上げが回復すればその分町も賑わってさ、...
c1: だってさその分税金がさ、取られるじゃん。
C: あ、そっか、...
c1: あ、でもデパートの売り上げが伸びればその分で設備が充実するから、人がたくさん来る。
c2: 設備が整うことによって、交通の便も良くなり、人口も増え、...
c1: そうよね。町の設備が良くなったら人が来て、...だから。
C: うわー、なんか色んなことがありすぎて分からなくなってきた。...②
c3: 人口が増えれば交通網ももっと整備されるし、商業施設も必要になってくる。あれ、おれらの4つの付箋の中に商業施設に関するものが入ってない。
C: 俺の消す? (この時Cは『森林伐採により森林が減少し空気が汚染される』という付箋を出していた。) ...③
c1: これらをまとめるとどうなるかっていうことよね。人が賑わう住みやすい町? 移動しやすくなり、人が集まってくるって感じ? 交通網が整い、人が賑わう町で良いんじゃない?
C: それでいっか。...④

資料35の下線部①から生徒Cは当初、住み続けたい町の姿として「空気がきれい」という自然環境の視点から考えようとしている。しかし、下線部③のように途中で自分の考えを取り下げてしまい、下線部④のように新たな視点や考えの深まりがないまま結論を導いている様子が伺える。

これは下線部②にあるように、学習班で多様な視点から意見が出されたことに対して、生徒Cは情報量が多いと感じ、思考が混乱したことが要因であると考えられる。その後、他の生徒が人口や

交通の視点を組み合わせて Our Vision としてまとめようとしているが、交通の視点と人口の視点の関係性の整理が不十分なまま、横並びにするに留まっている。結果、下線部④のように、生徒Cも思考を整理することができないまま、Our Vision が決まっている。

このように生徒Cにとって、多様な意見を整理できないまま学習が進んだことによって、新たな視点の獲得や考えの深まりが見られなかったと考えられる。

c 手立て③の妥当性と課題

多様な意見が生まれる問いを設定し、それらを学習班全員が納得できる1つの結論として合意形成する学習過程を設定したことは、他者の意見を参照したり、助言し合ったりしながら課題を解決することに有効であったため、手立て③の妥当性が示されたと考える。

一方で、多様な意見が生まれることで情報量が多くなり、生徒Cのように上手く整理できなかった場合には、新たな視点の獲得や、考えの深まりに繋がらなかった。そのため、教師は内容に関する資料だけでなく、思考を整理するための指導も必要であった。